

水戸黄門漫遊マラソン開催に伴う、地域への経済波及効果の測定

〔事業責任者〕

(自治体等側) 水戸黄門漫遊マラソン実行委委員会事務局

柏 直樹

(大学側) 人文社会科学部・教授

田中 泉

連携先

水戸黄門漫遊マラソン実行委員会事務局

プロジェクト参加者

柏 直樹 (水戸市市民協同部スポーツ課長・事業担当責任者)

久保田 重光 (水戸市市民協働部水戸黄門漫遊マラソン推進室長・統括)

山崎 智史 (水戸市市民協働部水戸黄門漫遊マラソン推進室係長・企画立案)

林部 慧太 (水戸市市民協働部水戸黄門漫遊マラソン推進室主事・企画立案)

田中 泉 (人文社会科学部教授・アンケート集計、分析、経済波及効果試算)

プロジェクトの実施概要

① プロジェクトの目的

茨城県が作成した産業連関表を基に水戸市の産業連関表を作成し、水戸黄門漫遊マラソンに伴う経済波及効果を推計する。推計にあたっては、事前にマラソンを開催してその経済波及効果を推計している他の都市の視察を行い、その結果を参考にして推計の基礎データとなるアンケートを作成し、実施する。

② 連携の方法及び具体的な活動計画

プロジェクト参加者が協同で他の都市のヒアリングを行い、その結果を参考にしてアンケートを作成する。水戸市の担当者はアンケート回収率向上に向けたPR活動、アンケートの実施、成果物の作成を行い、アンケートのデータと、事務局の決算資料を大学の担当者に

提供する。大学の担当者はアンケート結果を集計・分析するとともに、水戸市の産業連関表を作成し、アンケート集計結果と事務局の決算資料を基に経済波及効果を推計する。

③期待される成果

水戸黄門漫遊マラソンの経済波及効果の推計自体に大きな意味があるが、水戸市の産業連関表を作成することにより、今後市内で開催される様々なイベントの経済波及効果のみならず、自治体の様々な政策効果等の推計が可能になるという成果が期待される。

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

令和元年度では、マラソンを開催しその経済波及効果をすでに推計している2都市、岡山市、姫路市においてマラソン大会事務局でヒアリングを行い、その結果を参考にして、大会事務局が大会参加者にアンケートを実施した。大学側はそのデータの集計・分析を行うとともに、来年度に向けた改善点の洗い出しを行った。

令和2年度は新型コロナの影響のため、水戸黄門漫遊マラソンが開催中止となったため、新たなアンケート調査に基づくデータのアップデートも行えなかった。そこで、基礎調査に重点をおき、茨城県から公表された2015年茨城県産業連関表に基づいて水戸市産業連関表を作成した。

今年度も、昨年度に引き続き新型コロナの

影響のため水戸市内における水戸黄門漫遊マラソン大会が開催できなかった（今年度はWeb開催のみ）。そのため、新たなアンケート調査に基づくデータのアップデートも行えなかったが、プロジェクトの最終年度であったため、2015年水戸市産業連関表を作成し直すとともに、一昨年度のデータを用いて経済波及効果を推計した。

② プロジェクトの達成状況

今年度の成果として、2015年水戸市産業連関表の作成と水戸黄門漫遊マラソンの経済波及効果の推計に関しては、茨城大学人文社会科学部紀要に「2015年水戸市産業連関表の作成と水戸黄漫遊マラソンの経済波及効果の推計」『茨城大学人文社会科学論集』(1), pp. 123-135 (2022-02-25)として発表した。

③ 今後の計画と課題

令和元年度のアンケート調査は課題抽出のための予備調査の位置づけであったため、必ずしも精度が高いとはいえない。本調査の実施とその結果を用いた再試算の実行が期待される。また、水戸市を含む県央経済地区の産業連関表、あるいは地域間産業連関表を作成し、近隣市町村をも含む経済波及効果の推計することが今後の課題である。